

Monthly Report

D-SCAN

大広・生活者情報総合データベース

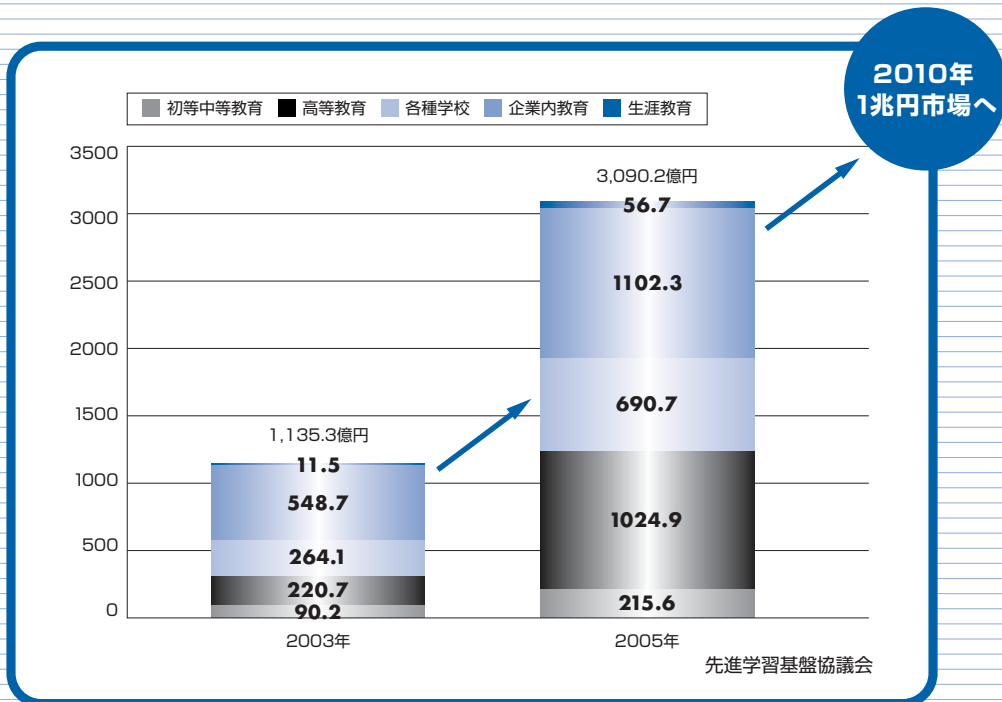
”eラーニング”が日本人の学習スタイルを変える?!

・積極的な学びスタイルで情報化、国際社会をサバイバル!

● **2010年=1兆円市場という予測も**
 日本のeラーニング市場は2003年に約1100億円、
 2005年には3100億円に達すると予測されている(先進学習基盤協議会)。
 また2010年までに約1兆円の市場になるとの予測もある(NTTデータ経営研究所)。

● **普及期に入るか、日本のeラーニング**
 日本の「eラーニング元年」と言われた2001年。認知度・注目度が高まり、
 数あるeビジネスの中でも特に有望視されている。インフラ面でもADSLが
 急速に普及、ブロードバンドによる高速大容量化もeラーニングの拡大に拍車をかける。

● **右脳教育からMBAまで**
 市場の大きさから注目されているのは社会人教育(社内教育)。ネット活用の教育は競争力を高める
 戦略の中核になりつつある。初等・中等教育では塾の動きが活発。生涯教育では英会話、資格スクール
 などの教育関連事業者が続々と参入している。



“eラーニング”をラーニング！

● 定義

- ・WBT (Web Based Training) とも言われるようにインターネットを使った教育のこと。最近ではIT (情報技術) を利用した教育研修システムを幅広くeラーニングと捉える傾向がある。広くはPCだけでなく、ゲーム機や携帯電話を利用した学習形態も含まれる。
- ・従来のパソコンを使った教育 (CAI) とはネットワークを活用する点が異なる。また従来の通信教育より即時性、インタラクティブ性に富む。

● ヒストリー

- ・CAI (Computer Aided Instruction) = CD-ROM等の教材をPCで学ぶ (アメリカで80年代後半)
 - WBT (Web Based Training) = インターネットの普及により、ネットワーク上のコンテンツをPCで学ぶ (アメリカで90年代中盤)
 - eラーニング = ネットワーク上のコンテンツをPCで、コミュニケーションを活用して学ぶ (アメリカで90年代後半、日本では01年頃)

● 対象分野

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1) 初等・中等教育 | 3) 社内教育等の社会人教育 |
| 2) 大学やMBA等の高等教育 | 4) 生涯教育 |

● 拡大の背景

- ・技術的背景 = PCの高速低価格化、インターネットの広がり、ブロードバンド化
- ・需要的背景 = ビジネスのスピード化、恒常的なレベルアップニーズ、専門性向上欲求

● 主なメリット

- ・場所と時間の制約がなくいつでもどこでも好きなときに学習できる。
- ・対話型教育や各人のレベルに合わせたパーソナライズが可能。

● 課題

- ・利用者の不満点は「強制されないため継続が困難」という点。孤立感を持ちがち。
- ・インフラ面の課題は解消、今後はITについていけない利用者の存在が普及の課題に。



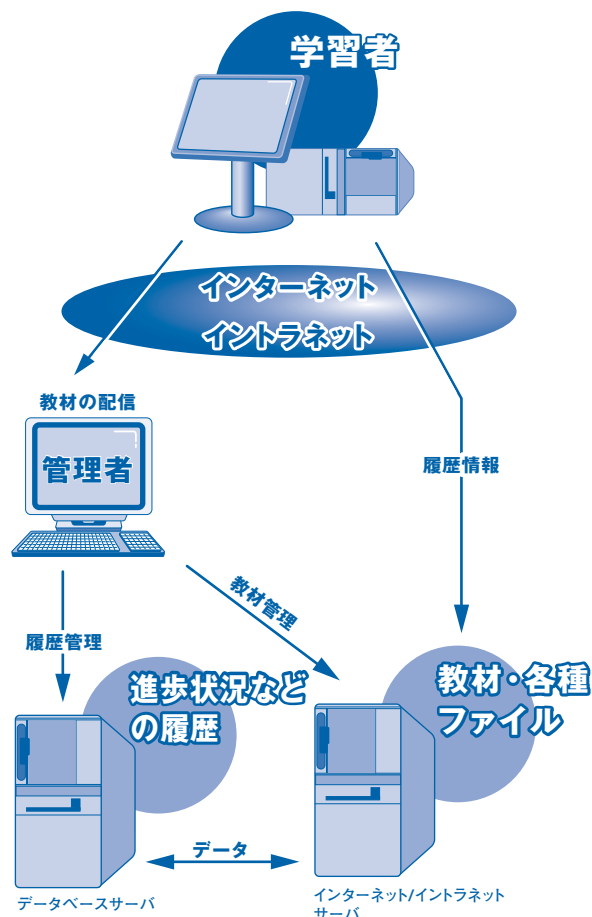
eラーニングNEWS

● eラーニング先進国アメリカでの動向 = 第2フェーズに入り「ブレンドラーニング」に注目

- ・eラーニングの歴史 = アメリカでのeラーニングの歴史。アメリカでは個人の業績が報酬や昇進に直結しておりスキルアップの動機付けが高い。また国土が広い移動コスト削減意識が強いことからeラーニングが浸透。企業研修だけでも2000年の23億ドルから05年には180億ドルにまで拡大すると言われている。
- ・しかし昨今は、費用対効果やeラーニングで対応できない面など、厳しい見方も。そこで登場してきたキーワードは「ブレンドラーニング」= 集合研修、書籍、ビデオ、OJTなどとブレンドして効果的な教育を提供すること。どの内容をどの順番でどのようにブレンドしていくかがポイントになっている。

● 日本での動向 = 大手参入で市場規模拡大を目指す

- ・英語学習事業大手のアルクは01年11月よりブロードバンド対応のeラーニング講座を開始。コースを順次充実させ、05年には10億円の販売を見込む。
- ・松下電器産業は02年6月、参加者が双方向でやりとりできるeラーニング用コミュニケーションソフトの販売を開始。05年を目処にeラーニング関連事業で100億円規模の売上を目指す。
- ・社内教育でも能力開発の中核になってきた。マクナルドでは03年より教育研修を全面的にネットに移行、世界のマクナルドのシステムとの連携も視野に入れる。
- ・日本でも活性化してきたeラーニング、今後は何人かで同時に受講するグループラーニング、情報の共有化を図るナレッジマネジメントとの融合、ブレンドラーニング、ライブのバーチャル教室など、日本的風土に合った様々な形態で広がりそうだ。





「私たち、eラーニングでスキルアップしています!」

※eラーニングを実践している人に、きっかけや魅力を個別インタビューしました。



専用ヘッドホンで海外の人との生の会話を楽しむ

～ミキさん (24歳) 保育士。『イングリッシュタウン』で英会話を勉強中～

---英会話学習を始めたきっかけは?またこれまでではどんな学習法だったんですか?

◎保育士の世界でも国際化が進み、英語圏からのご家庭が多くなりました。子供とは何とか意志の疎通ができて、親御さんとは難しい。いつまでも人を介して話すより、やはり直接話したいと思ったのがきっかけです。これまではヒアリングマラソンやマジックリスニングで勉強していました。eラーニングはホームページを見て、3ヶ月前からチャレンジしました。

---どうい内容のeラーニング?働きながらいつ勉強してるの?

◎私がやっているのは、専用のヘッドホンを使って24時間好きなときに外国の方と会話できるもの。1時間毎に45分のスピーキングの授業が設けられているんです。会話チャットなどにもとにかく参加。聞いているだけでも勉強になります。私が理解していなかったりすることがわかるとゆっくり話してくれたり、皆さん優しいんですよ。勉強時間は朝6時から1時間、夜に1時間、休日も使っています。継続するためには、自分で自分を強制してしまうことが大事です。

---eラーニングの魅力とは?

やっぱり時間を気にせず好きなときに勉強できるのが一番の魅力です。学校に通うと休んだ時は次まで何もできないし、通信教育だと生の声じゃない。eラーニングは気が向いたときに勉強できて、生の雰囲気会話できるので学習が進むのが利点だと思います。海外で暮らすという目標もできて張り切っています。



先生からの励ましのメッセージにがんばろう!という気になる

～ユカリさん (35歳) 教育機関勤務。インテリアコーディネーターコース終了、現在はWebデザインを勉強中～

---eラーニングで既に2コース目ですね。最初はいつ頃どんな目的で?

◎色彩を勉強していたので、2年前にインテリアも勉強しようと思い始めました。eラーニングは費用も安く学校に通う時間も交通費も要らないし、メールで質問などもできていいかなと思いました。

---eラーニングの良さはどこですか?

◎時間を気にせず、メールを利用して居ながらにして質問ができるのがとても便利です。またメールリストなどを通じて、他の受講生の質問や近況を知ることができたのは面白かった。先生から励ましのメッセージがメールで届いたりするのもうれしいものです。

---不満点はありますか?

◎インテリアは通信教育と同じでなかなかスケジュール通りに学習が進まず、課題の期限に間に合わせるために付け焼き刃的な学習になってしまいました。教材を受信するだけにならないように、自分から働きかける姿勢でないと有効活用できないと感じました。また受講生同士の直接の交流がなかったため、心を開いて交流できなかったのが残念です。でも現在受講しているネットワークの講座は、不満もなく快調に進んでいます。2年前とはeラーニングの環境も違ってきているのでしょう。



共通の目標を持つ友人との交流でモチベーションを維持

～ヒロさん (39歳) 会社員。CPA (米国公認会計士) 資格取得めざして勉強中～

---米国公認会計士なんて難しそう!働きながらどうやって勉強時間を捻出?

◎行きの通勤時間のうち30分をサブノートを使って知識面の強化にあて、昼休みのうち30分は演習問題による特訓、帰りは60分フルに使ってひたすら暗記物を中心に学習と演習をやります。資格としては、これまでも宅地建物主任者、初級シスアド、中小企業診断士 (一次)、BATIC (アカウソントマネジャー) を取りました。eラーニングは昨年秋から開始。24時間いつでも好きな時間帯に勉強できること、レポート学習が容易なのが魅力です。

---強制されないeラーニングは厳しい自己管理が必要ですね。

◎動機付けの維持は大きな課題です。私は共通の目標を持った友人を作ってモチベーションを維持するのがベストだと思います。ネットの掲示板などで容易に探せますよ。また少し動機が不純ですが、男性の場合は共通の目標を持った輝く異性に巡り会うと俄然やる気が起こるもの。交流はeラーニングの魅力のひとつです。ホームページなど立ち上げればベストです。私自身も資格系のサイトを作っています。

---eラーニングで勉強する人、これからもっと増えますか?

◎ブロードバンド環境が普及する中、コンテンツ次第では増えると思う。今は20~40代のサラリーマン主体ですが、今後は小中学生にまで波及すると思います。



Marketing View

●「学ぶ」の概念変化を市場化する

- ・「世界がますます緊密に結びつき、ビジネスがさらに複雑化しダイナミックになるにつれ、仕事はますます『ラーニングフル』になる。つまり学習を要する局面が増えるだろう」
(90年に「ラーニング・オーガニゼーション」に関する社会的概念を提起したマサチューセッツ工科大学のピーター・センゲ)。
- ・この言葉は近年ますます現実味を帯びてきている。受け身の情報をいくら大量に摂取しても、時間とともに情報ごと消費されていくだけ。独自の視点や創造性がないと、仕事の楽しさも人生の喜びも得られない。学習とは「自分にとって関心のある結果や重要なことを達成するために自分を変えること」。個人としても企業人としても。

●先進的行動的な“e-Learner”たち

- ・こうした動きに個人レベルで敏感に反応しているのが、いち早くeラーニングで学習を始めた人=e-Learnerたちだ。資格取得がブームとなるなか、家庭へのブロードバンド普及でますます利用が広がりそう。
- ・特にネット利用の語学教室は、24時間いつでも自宅で学べる便利さが受けている。TOIECの受験者数(01年までの総数)が何と900万人弱という英語大国?日本。大手も参入して既存学習+eラーニングの併用は、今後当たり前になりそう。

●eラーニングで生活スタイルが微妙に変わる

- ・eラーニングの成敗は、自己管理しながらいかに継続できるかにかかっている。今回取材したe-Learnerたちも悩みの種は「動機の維持」と「時間の捻出」。
- ・ネット上で共通の目的を持つ友人を作って励まし合い、通勤時間の活用、早朝の利用で時間を作る。「24時間どこでも学習」が可能になったことで生活時間は変化、各種モバイル型学習サポート用品が必需品となっている。

●eラーニングを活用したコミュニケーション方策へ

- ・これからは携帯電話やテレビなども駆使して、いつでもどこでも学べる時代になる。コンテンツも語学や資格だけでなく、趣味や技能など多彩なものになっていこう。
- ・入会を促す広告だけでなく、商品にまつわる知識のコミュニケーション、アクセスした人へのノベルティキャンペーンなど、eラーニングと合わせた販促や広告も多様に考えられる。